

学校名 (児童数)	長浜市立びわ南小学校 (304人)
--------------	-------------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：〒番号 526-0111 長浜市川道町3456

電話番号：0749-72-2003

【研究の目的、研究内容】

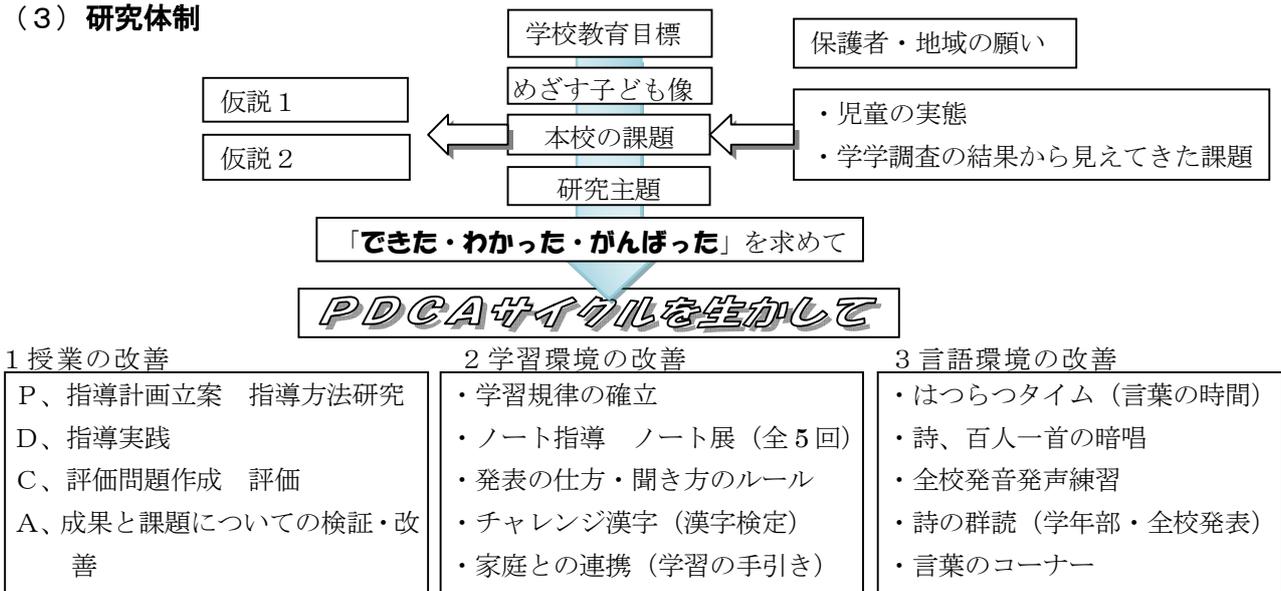
(1) 研究主題

自分の考えや思いを持ち、自信を持って表現することのできる子どもの育成
～基礎基本の定着と既習事項を生かして思考力・表現力を伸ばすために～

(2) 研究主題設定の理由

本校の児童の現状（友達と話すことは好きだが、改まった場では声が小さくなったり、自分から話したりすることができない。また素直で指示されたことは最後までやり遂げるが、自主性・自立性に乏しく人権意識が低い）に、全国学力・学習状況調査の結果から見えてきた課題（根拠をもとに、資料を正確に読み取る力が弱い。読み取ったことをもとに、自分の考えを論理的に表現する力が弱い。）を考慮し、子ども達が自分の考えや思いを、自信を持って表現できるようにすることを研究の柱に据えて進めることとした。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組の経過

- ・ 4月22日（火）全国学力・学習状況調査
- ・ 4月23日（水）～28日（月）全国学力・学習状況調査自校採点
- ・ 5月28日（水）校内研究会 本校の課題より研究の方針決定
年間指導計画・指導事項毎の見直しと単元を貫く言語活動の見直し
- ・ 6月11日（水）第1回授業研究会 特別支援学級生活単元学習・自立活動
「元気ランド」でいろいろな運動遊びを楽しもう
- ・ 6月12日（木）～14日（土）第1回ノート展
- ・ 6月23日（月）第2回授業研究会 5年国語科（「百年後のふるさとを守る」）
「この人のここがすごい」でショーで人物紹介をしよう

- ・ 7月15日（火）～17日（木） 第2回ノート展
- ・ 夏休み中 評価問題検討会
- ・ 10月9日（木）第3回授業研究会 5年国語科（「大造じいさんとガン」）
「Good（グット）！くるところ」を推薦しよう
- ・ 10月15日（水）第4回授業研究会 1年国語科
「いきものみいつけたずかん」をつくってお家の人に知らせよう
- ・ 10月15日（水）～17日（金） 第3回ノート展
- ・ 10月22日（水）第5回授業研究会 2年国語科
（「しかけカードの作り方」・「おもちゃの作り方」
「わかりやすくせつめいしよう」～おもちゃの作り方～
- ・ 10月29日（水）第6回授業研究会 3年国語科
「物語を書いて、絵本を作ろう」
- ・ 11月19日（水）第7回授業研究会 6年国語科（「平和について考える」）
「聞いてほしいことがあるのです！」～12歳の主張～
- ・ 11月20日（木）全校音読発表会
- ・ 12月16日（火）～18日（木） 第4回ノート展

（5）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

○年間指導計画 指導事項毎の見直し

昨年度「B書くこと」「C読むこと」に視点を絞って重点項目の洗い出しを図り、年間計画の見直しを実施した。本年度はさらに児童につけたい力が明確になるよう単元構成の見直しを図り、つけたい力にぴったりあった「単元を貫く言語活動」はどのようなものが良いかを考え、見直しをしながら進めてきた。

○P D C Aサイクルを生かした授業実践

授業の中で見えてきた成果と課題を次の授業に生かせるよう構成や教材研究を行った。

第2回授業研究会

<成果>

- ・子ども達に、単元の出口を明確に分らせることができる手立てが打てた。また単元の流れを子ども達の目に見える形で示していくことで、今自分たちは何のために何の学習をしようとしているのかを明確に示すことができた。
- ・授業の初めにモデリングを示す等で子どもへの手立ての方法がしっかり示せた。

<課題>

- ・交流の場面で質問などがあまり出ず、形式的に流れて深まらなかった。
- ・引用文の使い方、説明するために必要な文を持ってくることに不慣れな児童が多かった。

第3回授業研究会

<成果>

- ・必要感をもって交流に臨めるよう交流の目的の明確化を図れた。

<課題>

- ・つけたい力の中に交流のポイントをもっと明確にしておくべきだった。
- ・発達段階に応じた交流指導はどのようにしたらよいか。
- ・もう少し気軽に自分の言葉で話し合いができるようにするにはどうしたらよいか。

第4回授業研究会

<成果>

- ・全員が「書きたい」という満足感を持たせることができた。

- ・モデリングが児童に安心感を与えられた。
- ・課題の多い児童への配慮（準備）がしっかりなされていた。

<課題>

- ・1年生で交流（友達へアドバイスする）ということが難しい。発達段階に応じた交流のありかたはどうすれば良いか。
- ・できる子にも満足できる学習をさせるための手立てをどうするか。

第5回授業研究会

<成果>

- ・教科書の教材文をいきなり与えて自分で読む（主体的な読み）という体験は子どもたちにとってよかった。
- ・子ども同士の相談がよくできていた。（交流）

<課題>

- ・できる子の満足感を十分に満たす場面の工夫が必要である。（評価のさらなる工夫）
- ・交流をうまくできるようにするためのポイントをさらに考える必要がある。

第6・7回授業研究会

<課題>

- ・子ども同士の交流をもっと活性化させるための手立てをどうするか。
- ・主体的な読みをさせながら、子ども自身が必要な場面の読み取りを深めるための手立てをどうするか。

○学年毎に評価問題作り

授業研究を行った後、特別支援学級を除く4学年で（5、6年生の評価問題は県の調査部会で作成したものを使用）昨年の評価問題をベースにして本年度の本校独自の評価問題を作り、その結果を検証して、さらに各学年の課題の洗い出しを行った。

○話し方・聞き方・ノートを取り方のルール作り



話し方・聞き方・ノートを取り方のルールと教室掲示は昨年度と同じ。

○ノート展

- ・ノート指導の10か条（昨年と同じ）。
- ・1学期2回 2学期2回 ノート展を行った。
- ・国語科のノートとそれ以外のノートで優秀賞・努力賞を決め、前者は職員室前廊下に、後者は各学年ワークスペースに3～4日間展示し、児童には表彰状を与えた。

・何回か優秀賞を取った児童には名人証を授与し職員室前に名人の札を掲示した。

<成果>

- ・子ども達自身が分かりやすいノート作りを目指すようになった。



☆1時間の学習の流れが分かるような書き方を工夫したり、自分の考えや友だちの考えを入れてまとめたりできるようになった児童が増えてきた。

☆学習感想を書く時には、できるだけ条件をつけて書かせるようにしてきた結果、与えられた条件に合わせて書くことに慣れた児童がふえてきた。

(例…言葉を決めて使わせる。引用を入れる。字数を制限する。等)

- ・異学年の児童のノートを目にすることで、あこがれと自信を持つことができた。
- ・教師の学習計画や板書計画も充実してきた。
- ・参観日や懇談会のときに行ったので、保護者の関心も高くなった。

○「言葉のコーナー」の設置

・昨年に引き続き子ども達が自分の考えや思いを持ち、自信を持って表現する力を育成するための一つの方法として、学年の枠を越えて全児童が同じ「詩」や「俳句・川柳」の課題に楽しく取り組めるようにした。(1～2ヶ月に1度)



川柳・俳句・五行詩のコーナー



詩のクイズ

・また「詩のクイズ」のコーナーに新しく「ことわざクイズ」のコーナーを設けた。これは今年度の学学調査の結果をふまえ、日頃なじみのない「ことわざ」をクイズとして取り上げることで、子ども達により身近に感じさせるようにしたもので、子どもたちも楽しく取り組めた。

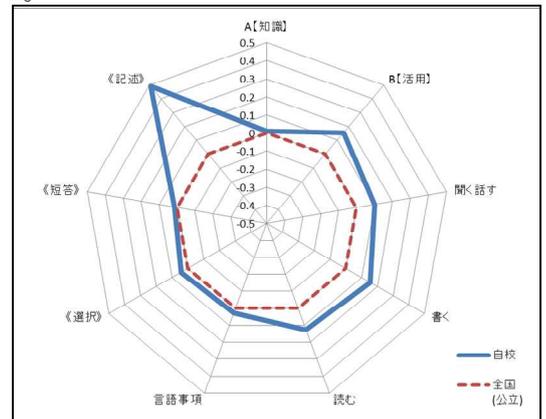


ことわざクイズ

【研究成果と課題】

(1) 研究成果

- それぞれの学年が子ども達に付けたい力を明確にし、つけたい力にぴったり合った「単元を貫く言語活動」は何かを考え、設定して授業を仕組むことができた。
- 授業後、本校独自の評価問題を作りその分析をおこなって、課題を洗い出し次へつないでいくことができた。
- 記述式の問題に対して、子ども達の無解答が大変少なくなった。
- 「書く」ことに対する抵抗感が少なくなってきた。
- 学学調査の結果でも記述の部分の力が伸びてきていることが認められる。
- 「言葉のコーナー」の、川柳や俳句、五行詩の応募状況は前年平均 56%から今年度 70%に伸び、書くことに意欲的に取り組めるようになった児童が増えてきた。
- ノート展に向けて意欲的に自分のノート作りに取り組むことができるようになった。



Fコンパスによる項目別正答率

(2) 課題等

- 複数の資料から必要な事柄を読み取り、自分の考えを入れて記述することがまだまだ弱い。
- 文章を「引用する」ことはかなりできるようになったが正しい仕方が理解できない児童も多い。
- 学校独自で作成した評価問題のさらなる見直しをする必要がある。
- 子ども自身による交流がさらに活性化できるようにするための方策を考えていく必要がある。
- 単元の中で主体的な読みをどう位置づけ、どう深めさせていけばよいか。